

## 特集「ネットマークスのソリューションと技術」の発刊に寄せて

佐藤 宏

本号では株式会社ネットマークスが提供するネットワークソリューションと技術について紹介する。当社は2007年6月に新たに日本ユニシスグループの一員となった。前身は住友電気工業株式会社の情報通信部門で、光ファイバーを使用した情報通信事業を国内では先駆的に行ってきた。所謂企業内ローカル・エリア・ネットワーク (Local Area Network: LAN) の開発・製造・設計・構築・保守事業である。当時は「通信路LAN」や「データハイウェイ」という名称で呼ばれ、あくまでも企業内に閉じた閉域ネットワークの世界である。光ファイバーを使用した初の国際標準FDDI LAN製品を国内最初に開発し、多くの企業において基幹ネットワークに採用され、光LANの一大ブームを作ったのも住友電気工業(株)である。

当社は、ネットワーク社会の国際化に対応し更なる飛躍を求めて、1997年4月に住友電気工業(株)から情報通信事業部門が独立して設立された会社である。以来、ネットワークソリューションプロバイダーとして、広くマルチベンダーのネットワーク機器のソリューションを提供してきた。新しいテクノロジーも常に取り入れており、データと音声を融合した国内初のIP-TelephonyやUnified communicationの構築を行ったのも当社である。

当社は新たに日本ユニシスグループの一員となった事により、更に幅広くソリューションを提供できる事となった。すなわち顧客企業の業務システムとネットワーク技術の融合を果たせるソリューションを提供できる体制が整ったと言える。

本来ネットワークは企業の業務システムを多数の社員が同時に利用可能とする技術で、企業内に閉じた利用技術であった(Local Area Network)。ところがインターネットが商用に供されるようになって、企業のネットワーク利用形態が多様化し、業務での利用範囲も格段に広がり、それに伴いネットワーク技術の飛躍的進歩が見られるようになった。

現在、ネットワーク上を流れる情報は単にテキストデータのみならず、音声、画像、動画等多岐に亘り、またそれらの情報は不特定多数の利用者や、コンピュータ同士での利用形態へと変化してきた。今や、ネットワーク(含むインターネット)は企業活動に無くてはならないインフラであるとともに、重要な社会的インフラとなっている。

総務省の予測によればインターネット上を流れる情報通信量は今後年間2倍強の増加が予想されている。この状態が今後も続いていくと、将来情報量の爆発的な増加に伴いIT機器の台数と機器ごとの情報処理量も大幅に増加するため、企業は機器スペースや消費電力、運用コスト等の問題を継続的にクリアーして行かなければならない。IT機器全般の消費電力量は2025年には2006年比5.2倍(2400億キロWh, 経済産業省予測)に増加し、中でもネットワーク機器の増加率は著しく13倍となっている。このまま進展していくと、電力供給やCO<sub>2</sub>排出等の問題のみならず、近い将来のIPアドレス枯渇問題へも発展していくリスクが考えられる。

当社は今後、このような問題にも正面から対峙していく。ソリューションの設計に当たって

は顧客ネットワーク資産の効率運用を最重点事項とし、最小の投資で最大効率を図るべく、統合化・自動化・仮想化の技術を駆使し、顧客へのソリューション提供を行っていく。また日本ユニシスグループの一員として、日本ユニシスが提供するクラウドコンピューティングサービスと当社が提供する企業内ネットワークサービスの融合化を図り、環境面における社会的要請にも積極的に貢献していく所存である。

本号では、現在当社が有しているネットワーク、セキュリティ、データマネージメント、運用管理の各ソリューションについて最新の技術状況を紹介する。皆様の参考になれば幸いです。

(株式会社ネットマークス 代表取締役副社長)